



# インド・アーナンダ病院ニュース

## ANANDA HOSPITAL NEWS No.5

特定寄付金に税制上の優遇措置が認可(ボランティア募集中) E-mail / info@iwvs.jp



ホームページもご覧ください。  
<http://iwvs.jp/>

インド福祉村協会

検索

アーナンダ病院やインド福祉村協会の情報は  
もちろん、動画でも現地の様子を見ていただく  
ことができます。

### 「日本とインドのきずな」

- ★ アーナンダ病院臨床検査技師 ルビナ・K 日本研修 (2015年11月)
- ★ 三重大学医学部 医師、医学生4名研修 (2015年8月)
- ★ アクティシステムKK(浜松) 3名アーナンダ病院研修 (2016年3月)

## 臨床検査技師 ルビナ・K 日本研修

インド福祉村協会 事務局長 請井 政広

2015年11月16日～11月25日の10日間、アーナンダ病院の臨床検査技師のMs. Rubinakhatoon Khan (通称:ルビナ)の日本研修を行いました。

ルビナさんは、今後のインド福祉村協会の事業において糖尿病をはじめとする生活習慣病の指導を行う現地リーダーとして期待されています。この研修を通し、生活習慣病の指導が必要と考えている日本人がどのような国に住み、どのような生活をし、病院でどのように患者への対応がなされ、検査はどのように行われているかを実際にみて今後の活躍に活かしてもらおうと実施されたものです。



(左から山本左近理事長、ルビナ、請井政広事務局長)



(三重大学医学部の教授、医師、医学生の皆さんと)

インドでは女性にとって安全な環境ではないため、独身女性が一人で旅行することはなく、ましてや夜行列車、タクシーに一人で乗ることもないそうです。そのような環境から来たルビナさんにとって、初めて一人で見知らぬ国・土地で宿泊するのはかなりの不安があったことでしょう。その不安を取り除くために3日間、福祉村の宿泊施設にて田中久子理事に同泊していただき、4日以降の名古屋・三重・東京のホテルでの宿泊以外の夜は私の自宅で過ごしてもらいました。私の自宅では高校生の娘と意気投合し、折り紙を習ったり、買い物に行ったり、インドの家族とビデオ会話をしたりとリラックスできたようです。

研修中のルビナさんが病院や大学を回りながら真剣な眼差しでいろいろなものを見聞きしている姿は、臨床検査技師として少しでも成長したいという思いが伝わってきました。



(福祉村病院職員の方々)

最後の日に山本左近理事長から「この経験を今後のアーナダ病院にどのように活かしたいか？」という問いに対して「日本での経験を患者やスタッフに話し、よりよい関係を作れるようにしたい」と話していました。きっと今後のインド福祉村協会の事業においてもアーナダ病院のリーダーとして活躍してくれることと思います。

今回のルビナさんの日本研修の成功は、企画した大竹鉦一常務理事のご活躍はもちろんのこと、山本左近理事長をはじめとする役員の皆様方のご協力がなければ実現できませんでした。日本に着いたばかりで慣れないルビナさんを歓迎するために夕食を共にしていただいた山本孝之



(11月17日の夕食風景 左奥から、山本孝之名譽理事、ルビナ、田中久子理事 右奥から、山本左近理事長、山本ゆかり専務理事(さわらび会)、請井政広事務局長)

## 研修行動

11/16	東京着。田中久子理事と現地ボランティア経験があり、ルビナさんと面識のある宮本かりんさんと共に東京を散策。その後、豊橋・福祉村へ移動し、宿泊。
11/17	福祉村病院と福祉村の各福祉支援施設を見学。午後は東三らばセンターで臨床検査の様子を見学。日本の看護師・介護士・支援員が非常にやさしく丁寧に患者様や利用者様に接していることや日本の技術の高さに関心をしていた。
11/18	浜松へ移動。浜松医科大学、アクティシステム様、幼稚園などを訪問。
11/19	豊橋メイツクリニック、豊橋メイツ睡眠治療クリニックを見学。今後の事業に関連した糖尿病に関する資料を受け取る。
11/20	春日井市民病院を見学。いろいろな検査スタッフから詳細な説明を受け、ルビナさんからの専門的な質問にも丁寧に答えていただけた。アーナダ病院では様々な臨床検査をルビナさん一人で行っており、広い部屋で40名のスタッフが分担して効率よく検査を実施している様子を見て驚いたようである。名古屋泊。
11/21・22	愛知医大、国立医療センター、名古屋市内見学。
11/23	三重大学にてアーナダ病院へ訪れた人たちと再会。お互いに意見交換を行った。三重泊。
11/24	三重大学病院を見学。大学病院はインドの大学と違い近代的な医療機器がそろっていて、病院の広さときれいさに感嘆していた。
11/25	東京へ移動し、翌朝の便にて、無事帰国。

名誉理事、さわらび会の山本ゆかり専務理事、三木隆治理事、渡辺康二先生のおかげで初めての長旅の疲れをいち早く癒すことができました。また、三日間にわたり行動を共にしていただいた田中久子理事、春日井市民病院の見学にご尽力いただいた仲井美由紀先生と春日井市民病院の皆様、ルビナさんの訪問に快く受け入れていただいた三重大学の皆様に感謝いたします。誠にありがとうございました。



(事務局長自宅前にて)

## 日本研修の感想

アーナンダ病院 検査技師 ルビナ・K

私が日本へ行く機会をいただいたすべての方々に深くお礼申し上げます。大竹様や左近様、グプタ医師やシャルマ様に深くお礼申し上げます。皆様のお力が無ければ、私は日本へ行くことは不可能でした。私は夢にも思っていなかったことを実現することが出来ました。

日本へ到着する前、私はとても心配していましたが、到着してから問題も恥ずかしがることも全く感じませんでした。どこに行っても人々は親切でとてもよく私に気遣ってくれました。特にかりん様、田中様、請井様に良くしていただきました。

皆様よりたくさんのことを学びました。礼儀の正しさ、寡黙さ、お互いが助け合っていること。すべての事が大変、素晴らしかったです。大きな病院や血液センターの研究所はとても大きく、清潔で器械が整っており、様々な治療の対処が出来るものでした。



(最終日の豊橋駅にて)

田中様と請井様には豊橋のすべての病院を案内していただきました。そして、患者さんとも交流させていただき、どのようにして患者さんを治療するかを学ばせていただきました。

そして、臨床検査センター、市民病院、大学病院や病棟での研修は私にとってとてもまたとない経験で

した。私の人生の中で決して忘れない経験でしょう。

私はとても遠い故郷と故国インドより、また皆様にお会いできる機会を祈っています。私は今とてもリラックスした毎日を過ごしています。なぜなら、ここの人々はとても良い人々だからです。私は大竹さんに自分の娘のように可愛がっていただきとても感謝しています。また、三木先生と渡辺様にも感謝しています。

著名人である左近様にお目にかかることが出来、ましてや貴重なお時間を割いていただいたことに感謝申し上げます。請井様には家族同様に接していただきましたこと、感謝しています。

皆様とたくさんの良い思い出を作ることが出来ました。また、皆さんからのたくさんの愛情をいただいたことに、とても感謝しています。ありがとうございました。



(名古屋城と金シャチ)



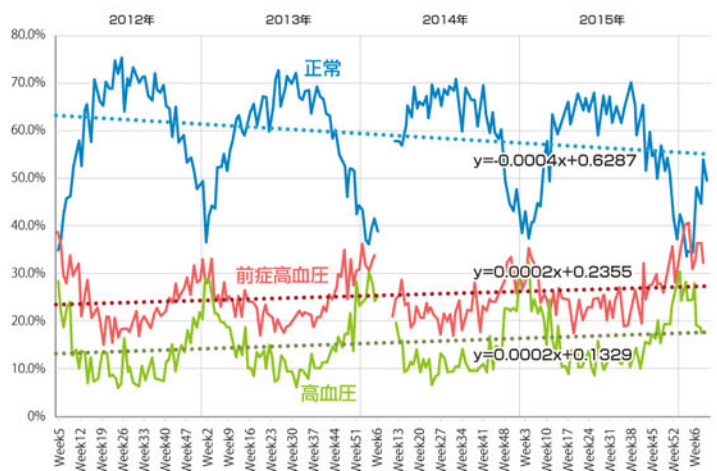
(水族館とシャチ)

## 遠隔医療 自動血圧測定 最新報告

インド福祉村協会 理事 三瓶 宏一

2012年1月から開始した自動血圧測定機による血圧測定数は2016年3月4日現在で累計53,605であった。前回2015年12月の報告時より顕著に表れた変化としては明らかな血圧正常値の患者の割合の減少である。

右記は2012年1月から2016年3月4日までの4年2か月の、1週間毎の血圧患者の血圧を、正常、前症高血圧、高血圧の3つの割合の変化を表したものである。正常値は夏の気温が高い時期には測定室は平均気温が35℃程度になるが、その頃には測定数全体からみて正常値を示す患者の割合が70%近くまで上がるが、1月ころには平均気温が20℃以下になると、その割合が40%台まで落ちて来る。よってグラフのような夏にピークが来る繰り返し4年で4回観測される。線形近似してみると2015年12月の段階では測定開始4年弱で3%程度正常値の割合の減少であったのが今回は4年2か月の平均で7%の減少していることが観測された。患者層の年齢層の変化は観測されないでこれは加齢によるもの



ではなく、前回よりもさらに純粋に高血圧患者の割合が増加していると考えられる。一方、前症高血圧は3%、高血圧患者は4%増加している。早期の生活改善や運動の習慣を付ける指導の開始が重要と考えられる。

2016年正月アーナンダ病院を訪問して、新しい計画、課題の解決をしました。部落民との話し合いも実施してきました。

① ND日本光電寄付のAuto Cell AnalyzerとECGは順調に作動しておりました。インド政府のCSR制度による提供です。

そのうえ検査試薬を多量に贈呈(約50万円相当)頂き感謝です。ルビナさんが生化学検査が早く簡略されたと喜んでいました。

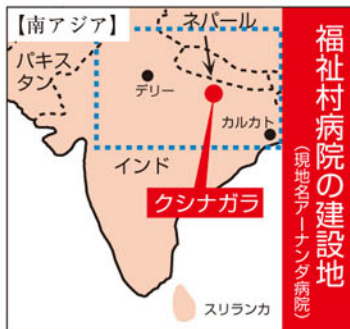


② 三瓶理事の寄附 AUTO BLOOD PRESSURE(自動血圧計)はスムーズに動いており、多くの患者に利用されておりました。

毎日、日本にTelcomuniumにて毎日の患者数、血圧、脈拍、温度がMLされてきます。前の機械で4万例も測定したので無理ないですね。



③ kushinagarの中国仏教寺院から多量の薬品が寄付されました。短期間の中国医療奉仕団、婦人科、小児科、内科、その他のDrから医薬品が贈呈されました。



(アーナンダ病院スタッフ)

## 現地住所

ANANDA HOSPITAL TEL:91-92354-24671 / 91-5564-217544

住所:VILLAGE SIRSIA DIST KUSHINAGAR 274403.UP.INDIA

## 入会のお願い

正会員:年会費 5,000円 …… 総会の議決権があります。協会の会報を毎回お届けします。プロジェクトの進み具合、現地の情報を逐次お知らせします。現地宿泊の便宜を図ります。

賛助会員:年会費 1,000円 (一口以上) 総会の議決権はありません。協会の会報をお届けします。

特別会員: 100,000円 (一口以上) 代表一名を正会員として登録します。その他正会員と同様。

寄付会員: 円 ※自由な金額を寄付できます。

### 【会費・寄付の支払い方法】

郵便振替 口座番号:00830-2-65008 加入者名:インド福祉村協会

郵便振替用紙を利用し、最寄りの郵便局より手続きを行ってください。ご一報いただければ振替用紙をお届けします。

銀行振込 ゆうちょ銀行 口座番号: 0065008 支店名: 089 口座種別: 当座 加入者名: 特定非営利活動法人インド福祉村協会

入金が確認されましたら領収書をお送りします。寄付金は、税制上の優遇措置が受けられます。

### 募金のお願い

少しでもあなたの善意を分けて下さい。

東海ろうきんのNPO寄付システムもご利用いただけます。

<http://tokai.rokin.or.jp/shakai/np.html>

インド福祉村協会 (INDIA WELFARE VILLAGE SOCIETY)

理事長 / 山本左近 専務理事 / 高木元晃 常務理事 / 大竹紘一

理事 / 三木隆治、伊藤孝道、中村義博、田中久子、K・L・バハール、樋口恵子、加藤伸也、吉田晃

事務局長 / 請井政広

ホームページ / <http://iwvs.jp> E-mail / [info@iwvs.jp](mailto:info@iwvs.jp)

■ 発行者 インド福祉村協会 (IWVS)

■ 発行人 山本左近 ■ 編集 大竹紘一 ■ 協力 文創社

■ インド福祉村協会事務局

〒441-8124 愛知県豊橋市野依町山中19-14

TEL:0532-46-7511 FAX:0532-46-4899